

令和7年度 高知県発達障害児等支援スキルアップ研修

乳幼児期の発達の特徴に合わせた 保育の在り方



令和7年7月15日
高知県教育委員会事務局幼保支援課

- ◇身体が著しく発育するとともに、運動機能が急速に発達する時期
- ◇次第に自分でやりたいという意識が強くなる一方で、信頼できる保護者や保育者などの大人にまだ依存していたいという気持ちも強く残っている時期
- ◇幼児が自分の生活経験によって親しんだ具体的な物を手掛かりにして、自分自身のイメージを形成し、それに基づいて物事を受け止めている時期

発達の特徴

幼稚園教育要領解説 P16～17

- ◇信頼や憧れをもって見ている周囲の対象の言動や態度などを模倣したり、自分の行動にそのまま取り入れたりすることが多い時期
- ◇環境と能動的に関わることを通して、周りの物事に対処し、人々と交渉する際の基本的な枠組みとなる事柄についての概念を形成する時期
- ◇他者との関わり合いの中で、様々な葛藤やつまずきなどを体験することを通して、将来の善悪の判断につながる、やってよいことや悪いことの基本的な区別ができるようになる時期

幼児教育において育みたい資質・能力の整理

小学校
以上

知識・技能

思考力・判断力・表現
力等

学びに向かう力・人間
性等

※下に示す資質・能力は例示であり、遊びを通しての総合的な指導を通じて育成される。

知識・技能の基礎

(遊びや生活の中で、豊かな体験を通じて、何を感じたり、何に気付いたり、何が分かったり、何ができるようになるのか)

- ・ 基本的な生活習慣や生活に必要な技能の獲得・身体感覚の育
- ・ 規則性、法則性、関連性等の発見
- ・ 様々な気付き、発見の喜び
- ・ 日常生活に必要な言葉の理解
- ・ 多様な動きや芸術表現のための基礎的な技能の獲得

等

思考力・判断力・表現力等の基礎

(遊びや生活の中で、気付いたこと、できるようになったことなども使いながら、どう考えたり、試したり、工夫したり、表現したりするか)

- ・ 試行錯誤、工夫
- ・ 予想、予測、比較、分類、確認
- ・ 他の幼児の考えなどに触れ、新しい考えを生み出す喜びや楽しさ
- ・ 言葉による表現、伝え合い
- ・ 振り返り、次への見通し
- ・ 自分なりの表現
- ・ 表現する喜び等

遊びを通しての
総合的な指導

- ・ 思いやり・安定した情緒・自信
- ・ 相手の気持ちの受容・好奇心、探究心
- ・ 葛藤、自分への向き合い、折り合い
- ・ 話合い、目的の共有、協力
- ・ 色・形・音等の美しさや面白さに対する感覚
- ・ 自然現象や社会現象への関心

等

学びに向かう力・人間性等

(心情、意欲、態度が育つ中で、いかによりよい生活を営むか)

・ 三つの円の中で例示される資質・能力は、五つの領域の「ねらい及び内容」及び「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」から、主なものを取り出し、便宜的に分けたものである。

環境を通して行う教育

幼児教育

幼児教育を行う施設として共有すべき事項

第1章 総則

保育所保育指針解説 P60～61

4 幼児教育を行う施設として共有すべき事項

(1) 育みたい資質・能力

実際の指導場面においては、「知識及び技能の基礎」「思考力、判断力、表現力等の基礎」「学びに向かう力、人間性等」を個別に取り出して指導するのではなく、遊びを通した総合的な指導の中で一体的に育むよう努めることが重要である。（中略）

小学校以降の教育は、各教科等の目標や内容を、資質・能力の観点から整理して示し、各教科等の指導のねらいを明確にしながら教育活動の充実を図っている。

一方、保育所保育では、遊びを展開する過程において、子どもは心身全体を働かせて活動するため、心身の様々な側面の発達にとって必要な経験が相互に関連し合い積み重ねられていく。つまり、乳幼児期は諸能力が個別に発達していくのではなく、相互に関連し合い、総合的に発達していくのである。

保育所保育において育みたい資質・能力は、こうした保育所保育の特質を踏まえて一体的に育んでいくものである。

※下線部及び赤字：本資料作成者

生涯にわたる生きる力の基礎を培う

かけがえのない人生を歩んでいる子ども一人一人が、自ら選択し、決定していくという主体性や生きることへの意欲を育んでいる。



生活を通して子どもが周囲に存在するあらゆる環境からの刺激を受け止め、**自分から興味をもって環境に関わること**によって様々な活動を展開し、**充実感や満足感を味わうという体験が重視されなければならない。**

【乳幼児期の発達特性】

- ・ 自分の生活を離れて**知識や技能を一方的に教えられて身に付けていく時期ではない。**
- ・ 生活の中で自分の興味や欲求に基づいた**直接的・具体的な体験を通して、豊かな心情、物事に自分から関わろうとする意欲や健全な生活を営むために必要な態度**などが培われる時期である。

基本的事項

- 視覚、聴覚などの**感覚**や、座る、はう、歩くなどの**運動機能**が著しく発達する。
- 特定の**大人**との応答的な関わりを通じて、**情緒的な絆**が形成される。



受容的、応答的に行われる保育の重要性

- ① 子どもの欲求に丁寧に応答し、不安があるとしがみつける他者が傍らにすることで、子どもの心の中にその人への深い信頼感が育つ。
- ② ①によってやがて他者一般への信頼感を身に付けていくため、保育者等との関わりの中で、無条件で愛されている自分を子どもが感じることができるようになる。
- ③ この時期の保育は、こうした愛着行動、基本的信頼感、自己肯定感の育ちを意識した展開が不可欠となる。

第2章 1 乳児保育に関わるねらい及び内容

保育の実施に関わる配慮事項

保育所保育指針解説 P118～120

- 乳児は疾病への抵抗力が弱く、心身の機能の未熟さに伴う疾病の発生が多いことから、一人一人の発育及び発達状態や健康状態についての適切な判断に基づく**保健的な対応**を行うこと。
- 一人一人の子どもの生育歴の違いに留意しつつ、欲求を適切に満たし、**特定の保育士が応答的に関わる**ように努めること。
- 乳児保育に関わる**職員間の連携や嘱託医との連携**を図り、第3章に示す事項を踏まえ、適切に対応すること。栄養士及び看護師等が配置されている場合は、その**専門性を生かした対応**を図ること。
- 保護者との信頼関係を築きながら保育を進めるとともに、保護者からの相談に応じ、**保護者への支援**に努めていくこと。
- **担当の保育士が替わる場合**には、子どものそれまでの生育歴や発達過程に留意し、職員間で協力して対応すること。

乳幼児期の教育・保育

DVDから考えてみよう



◆パズルボックス（10ヶ月）

【みる視点】

◆子どもの表情・つぶやき・物の扱い・保育者との関わりを観てみましょう。

◆保育者の関わりで、気付いたことを書きとめましょう。

基本的事項

- 基本的な**運動機能**（歩行の開始、走る、階段を上がる、両足で跳ぶなど）が発達し、自分の体を思うように動かすことができるようになる。
 - 排泄の自立のための**身体的機能**、**指先の機能**も発達し、食事、衣類の着脱など身の周りのことを**自分**で行うようになる。
 - 言葉の理解が進み、自分の意思を親しい大人に伝えたいという欲求も高まる。
- この時期の終わり頃には、自分の意思や欲求を**言葉で表出**できるようになる。



- 指さし、身振り、片言などを盛んに使うことから、**応答的な大人とのやり取りを重ねる中で**、自分のしたいこと、して欲しいことを言葉で表出できるようになる。
- 子どものまだ十分には言葉にならない**様々な思いを丁寧に汲み取り、受け入れ、子どもの生活の安定を図りながら**、子どもの**「自分でしたい」という思いや願いを尊重して**、その発達や生活の自立を**温かく見守る**とともに、**受容的、応答的に関わる**ことが求められる。

保育の実施に関わる配慮事項

保育所保育指針解説 P180～181

- ア 特に感染症にかかりやすい時期であるので、体の状態、機嫌、食欲などの日常の状態の観察を十分に行うとともに、適切な判断に基づく**保健的な対応を心がける**こと。
- イ **探索活動が十分できるように**、事故防止に努めながら活動しやすい環境を整え、全身を使う遊びなど様々な遊びを取り入れること。
- ウ **自我が形成され、子どもが自分の感情や気持ちに気付くようになる重要な時期である**ことに鑑み、情緒の安定を図りながら、**子どもの自発的な活動を尊重するとともに促していく**こと。
- エ **担当の保育士が替わる場合**には、子どものそれまでの経験や発達過程に留意し、**職員間で協力して対応する**こと。

乳幼児期の教育・保育

DVDから考えてみよう



- ◆板遊び・シーソー（1歳6ヶ月）
- ◆トラブル（2歳7ヶ月）

【みる視点】

- ◆子どもの表情・つぶやき・物の扱い・保育者との関わりを観てみましょう。
- ◆保育者の関わりで、気付いたことを書きとめましょう。

基本的事項

- 基本的な生活習慣もほぼ自立
- 理解する語彙数の急激な増加
- 知的興味や関心の高まり
- 集団的な遊びや協同的な活動



個の成長と集団としての活動の充実を図る保育

第2章 3 3歳以上児の保育に関わるねらい及び内容

保育の実施に関わる配慮事項

保育所保育指針解説 P282~284

- ア 第1章の4の(2)に示す「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が、ねらい及び内容に基づく活動全体を通して資質・能力が育まれている子どもの小学校就学時の具体的な姿であることを踏まえ、指導を行う際には適宜考慮すること。
- イ 子どもの発達や成長の援助をねらいとした活動の時間については、意識的に保育の計画等において位置付けて、実施することが重要であること。なお、そのような活動の時間については、保護者の就労状況等に応じて子どもが保育所で過ごす時間がそれぞれ異なることに留意して設定すること。
- ウ 特に必要な場合には、各領域に示すねらいの趣旨に基づいて、具体的な内容を工夫し、それを加えても差し支えないが、その場合には、それが第1章の1に示す保育所保育に関する基本原則を逸脱しないよう慎重に配慮する必要があること。

乳幼児期の教育・保育

DVDから考えてみよう



◆色水遊び（5歳児）

保育をみる視点

①友達や保育者との関わりのなかで、思いを伝え合ったり、考えたり、試したりして遊ぶ姿

※自ら周り(もの・人など)に働きかけている一人一人の姿を意識して、具体的な姿を記録しましょう。

②①の姿から、どのような力が育とうとしているでしょう

小学校以上の教科

生きる力の基礎

3つの柱
(資質・能力)

- ・知識及び技能の基礎
- ・思考力・判断力・表現力等の基礎
- ・学びに向かう力・人間性等

10の姿

健康な
心と体

自立心

協同性

道徳性・規範
意識の芽生え

社会生活との
関わり

思考力の芽生え

自然との関わり・生
命尊重

数量や図形、標識
や文字などへの関
心・感覚

言葉による
伝え合い

豊かな感
性と表現

人間関係

表現

言葉

環境

5つの領域

主体的・対話的で
深い学び

自分との関わり、人との関わり、ものとの関わり

養護

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿

幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領

健康な心と体

園生活の中で、充実感をもって自分のやりたいことに向かって心と体を十分に働かせ、見通しをもって行動し、自ら健康で安全な生活をつくり出すようになる。

自立心

身近な環境に主体的に関わり様々な活動を楽しむ中で、しなければならないことを自覚し、自分の力で行うために考えたり、工夫したりしながら、諦めずにやり遂げることで達成感を味わい、自信をもって行動するようになる。

協同性

友達との関わる中で、互いの思いや考えなどを共有し、共通の目的の実現に向けて、考えたり、工夫したり、協力したりし、充実感をもってやり遂げるようになる。

道徳性・規範意識の芽生え

友達と様々な体験を重ねる中で、してよいことや悪いことが分かり、自分の行動を振り返ったり、友達の気持ちに共感したりし、相手の立場に立って行動するようになる。また、きまりを守る必要性が分かり、自分の気持ちを調整し、友達と折り合いを付けながら、きまりをつくったり、守ったりするようになる。

社会生活との関わり

家族を大切にしようとする気持ちをもつとともに、地域の身近な人と触れ合う中で、人との様々な関わり方に気付き、相手の気持ちを考えて関わり、自分が役に立つ喜びを感じ、地域に親しみをもつようになる。また、園内外の様々な環境に関わる中で、遊びや生活に必要な情報を取り入れ、情報に基づき判断したり、情報を伝え合ったり、活用したりするなど、情報を役立てながら活動するようになるとともに、公共の施設を大切に利用するなどして、社会とのつながりなどを意識するようになる。

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿

思考力の芽生え

幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領

身近な事象に積極的に関わる中で、物の性質や仕組み等を感じ取ったり、気付いたりし、考えたり、予想したり、工夫したりするなど、多様な関わりを楽しむようになる。また、友達の様々な考えに触れる中で、自分と異なる考えがあることに気付き、自ら判断したり、考え直したりするなど、新しい考えを生み出す喜びを味わいながら、自分の考えをよりよいものにするようになる。

自然との関わり・生命尊重

自然に触れて感動する体験を通して、自然の変化などを感じ取り、好奇心や探究心をもって考え言葉などで表現しながら、身近な事象への関心が高まるとともに、自然への愛情や畏敬の念をもつようになる。また、身近な動植物に心を動かされる中で、生命の不思議さや尊さに気付き、身近な動植物への接し方を考え、命あるものとしていたわり、大切にする気持ちをもって関わるようになる。

数量・図形、標識や文字などへの関心・感覚

遊びや生活の中で、数量や図形、標識や文字などに親しむ体験を重ねたり、標識や文字の役割に気付いたりし、自らの必要感に基づきこれらを活用し、興味や関心、感覚をもつようになる。

言葉による伝え合い

先生や友達と心を通わせる中で、絵本や物語などに親しみながら、豊かな言葉や表現を身に付け、経験したことや考えたことなどを言葉で伝えたり、相手の話を注意して聞いたりし、言葉による伝え合いを楽しむようになる。

豊かな感性と表現

心を動かす出来事などに触れ感性を働かせる中で、様々な素材の特徴や表現の仕方などに気付き、感じたことや考えたことを自分で表現したり、友達同士で表現する過程を楽しんだりし、表現する喜びを味わい、意欲をもつようになる。

「発達気になる子ども」の支援



保育者は、子どもと生活を共にしながら子どもを理解する

自閉スペクトラム症の子どもが列に並べないとき…



子どもを障害でみると…

自閉スペクトラム症
だから仕方ないよね



障害の専門家でないと
支援ができないと
思ってしまいます

子どもを子どもとしてみると…

じゃあ何番目なら並べるか
試してみよう

「何がみえてるのかな」
「何がわからないのかな」
保育者の専門性を活かした
支援ができます



「子どもの専門家」として、保育ならではの支援をしましょう！

子どもの行動の「？」に迫る

目にみえない子どもの背景

園の環境（ザワツキ・人口密度・友達関係・大人のかかわり方…）

子どもが生まれ持った発達特性

子どもが身に付けてきたもの（経験から学んだもの）

目に見える子どもの姿

子ども理解の枠を広げる

「どうしたらいいの？」の前に「なぜこうなるの？この子はどんな気持ちなの？」が分かると手立てはみえてきます。

子どもの長所をみることが一番大切

「診断名」では分からない、いろいろな特性がある



- 好奇心が強い
- 好きなことにはすごく集中できる
- 手先が器用
- 体力がある
- 記憶力がすごい
- 人にやさしい … e t c

対人関係はASDの
ようかも？
(人とのやりとりが苦手)

行動を見ると
ADHDの
ようかも？
(落ち着きがない…)

学校に行ったら
LDのようかも？
(勉強にとっても苦手
なところがある)

生まれつきの発達特性の中では、困難よりも「長所」をみることが大事

子どもは、自分の「長所を活かして認められる」ことで育つ

子どもの困難さに寄り添う教育・保育

DVDから考えてみよう



◆しゅんくん「生活発表会」

【みる視点】

◆子どもの表情・つぶやき・物の扱い・友だちや保育者との関わりから、子どもがどんな思いでいるのかを推し量ってみましょう。

◆保育者の関わりで、気付いたことを書きとめましょう。

子どもの困難さに寄り添う教育・保育

DVDから考えてみよう



◆しょうちゃん「ジャンボマット」

【みる視点】

◆子どもの表情・つぶやき・物の扱い・友だちや保育者との関わりから、子どもがどんな思いでいるのかを推し量ってみましょう。

◆保育者の関わりで、気付いたことを書きとめましょう。

視覚支援として

環境の工夫



マジックや色紙と同じ色の箱を用意し、片付ける場所を分かりやすくする。



整頓の仕方を写真で示す。

情報伝達の工夫

活動内容の工夫



一日の流れを視覚的に提示する。



登園後



帰園前



給食

特別支援教育・障害児保育ガイドブック
【保育所・幼稚園等用】より

教育・保育の質向上に向けた取組等

